

## 年譜

- 弘化3(1846)年 櫻野村(現・さくら市)に生まれる  
慶応3(1867)年 家督を相続  
明治5(1872)年 鬼怒川沿岸の土地を桑畑として開墾  
明治10(1877)年 第四十一国立銀行設立  
明治11(1878)年 第四十一国立銀行開業、取締役就任  
明治12(1879)年 第1回栃木県議会議員当選(同年辞任)  
明治13(1880)年 那須開墾社設立、幹事に就任  
明治17(1884)年 養蚕伝習所を設立  
明治19(1886)年 瀧澤運送店を開業  
明治20(1887)年 施善会を設立  
下野麻紡織会社設立、取締役就任  
第1回県議員に当選(同年11月に辞職)  
下野綿布株式会社、取締役就任  
氏家町長に就任(翌月辞任)  
下野銀行、取締役就任  
陸軍大演習で瀧澤家が明治天皇小懇所に  
氏家小学校敷地を寄付  
氏家小学校改築費を寄付  
氏家銀行、頭取就任  
櫻野病院を設立  
明治33(1900)年 貴族院多額納税者議員に勅任  
明治34(1901)年 勲四等旭日小綬章受章  
明治39(1906)年 茨城県結城町陸軍大演習に招待される  
明治40(1907)年 宇都宮で行われた宮内省主催の宴会に招待される  
明治42(1909)年 鬼怒川水力電気株式会社、発起人となる  
明治43(1908)年 死去  
大正5(1916)年



発行:さくら市教育委員会

その後、明治33(1900)年、客殿を建て替えました。

現在も残る「<sup>てっちくどう</sup>鐵竹堂」です。豪華な近代和風建築となっており、天皇の再行幸に備えたものと考えられます。なお、「鐵竹」とは、喜平治の雅号です。



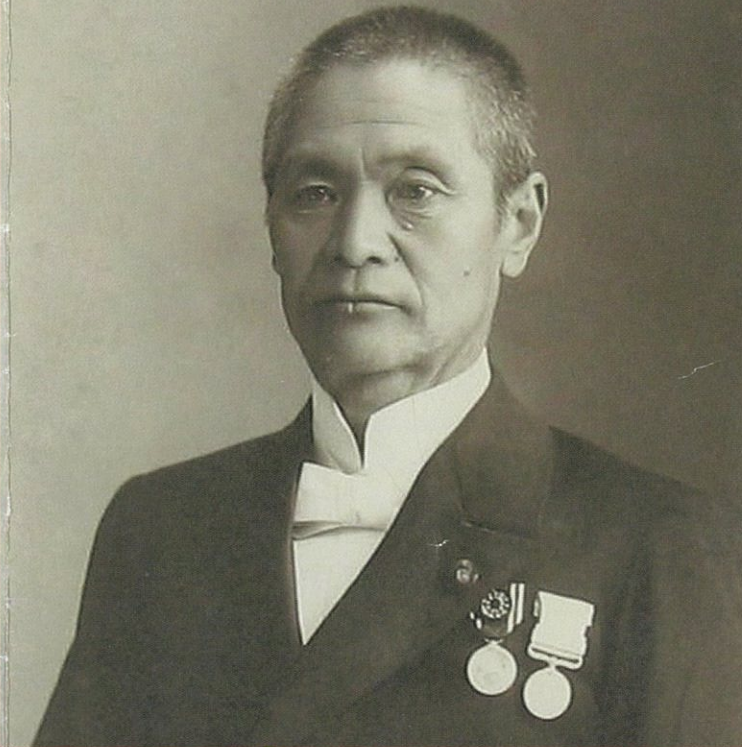
鐵竹堂の前で(明治末~大正)

## 書画を愛する

喜平治は、趣味として書画、骨董などを収集しました。日本画家の<sup>こむろ すいうん</sup>小室翠雲とも交流があり、大正期には翠雲を瀧澤家に長逗留させていました。その際に描かれた襖や屏風が今も残っています。

明治34(1901)年、貴族院多額納税者議員に当選し、37年までつとめました。明治39(1906)年には、功績が認められ<sup>きよくしつしやうじゆしやう</sup>勲四等旭日小綬章が授与されました。

喜平治は、大正5(1916)年、病気のため70歳で亡くなりました。喜平治の葬儀には、県内の名士たちの他、氏家中学校の生徒600名を含め1000名以上の参列者があつたと当時の新聞は伝えています。



実業家  
瀧澤喜平治

TAKIZAWA KIHIEIJI



たきざわ きへいじ  
瀧澤喜平治は明治から大正にかけて活躍した実業家です。生涯に渡り養蚕・紡績・運輸や金融業など、さまざまな事業に進出していき、栃木県屈指の実業家となりました。

## 櫻野村に生まれる

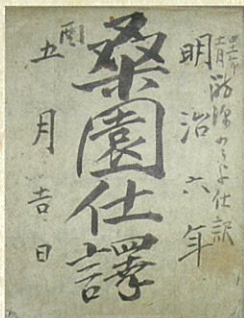
喜平治は、弘化3(1846)年、瀧澤武平の長男として櫻野村(現・さくら市櫻野)に生まれました。瀧澤家は、穀物問屋や肥料商などを経営し、幕末にはこの地域を代表する資産家となっていました。

## 実業家としての出発

慶応3(1867)年に喜平治が家督を継ぐと、明治5(1872)年、櫻野から蒲須坂付近にいたる広大な原野(通称・上野原)を中心とした600町歩の土地の払下げをうけ、開墾して田畑にしたほか、樹木を植林し育成に励みました。晩年まで林業に携わり、植えた樹木の数は130万本ほどになったと伝えられています。

喜平治が特に力を注いだのが、養蚕業でした。明治5(1872)年、宇都宮県から鬼怒川沿岸の土地(現・さくら市北草川)を買取り、私財を投じて桑園の開発を進め、養蚕業に力を注ぎました。

10年ほどは試行錯誤の連続でしたが、宮城出身の錦織俊介を養蚕教師として雇い入れてから順調となり、明治17(1884)年には養蚕伝習所を設立、農家の副業として養蚕業を普及させていきました。



「桑園仕譯」明治6年

## 第四十一国立銀行の設立

明治5(1872)年に国立銀行条例が公布されると、翌年、日本で最初の銀行「第一国立銀行」が設立されました。その後、殖産興業推進のために、全国で次々と国立銀行が設立されていきました。

喜平治も木村半兵衛、鈴木要三らとともに、明治10(1877)年、栃木県において初めての銀行「第四十一国立銀行」を栃木町に設立し、取締役役に就任しました。

その他、喜平治は下野銀行や、栃木県農工銀行、矢板銀行、氏家銀行など県内の銀行経営に関わっていました。



銀行にて(右・喜平治)

## 実業家として活躍

明治13(1880)年、印南丈作、矢板武らとともに那須野が原開墾のため、那須開墾社の設立に携わり、幹事として会社を支えました。

また、明治19(1886)年、長久保駅が開設されると駅前に瀧澤運送店を開業し、明治20(1887)年には下野麻紡織会社を設立しました。

明治43(1910)年には栃木県内の11の銀行、会社に役員として名を連ね、県内屈指の実業家となりました。

## 地域社会への貢献

喜平治は、様々な事業で得た利益を、地域活動へ寄付をしました。

氏家小学校、氏家中学校の建設や維持のために、敷地や教育資金などを寄付しており、氏家小学校には顕彰碑が建立されています。

また女子教育の充実を図り女学校の設立を計画、喜平治が亡くなった後は、孫の民がその意思を受け継ぎ、櫻野に氏家裁縫女学校を開校しました。

また、貧困者が治療を受けられるよう地元櫻野に「施善会」を設立、その後、明治33(1900)年に櫻野病院を設立し、地域の医療充実にも貢献しました。その他、郡役所新築や県庁舎の移転新築、氏家駅敷地買い上げ、道路の改修・整備などにも寄付をしました。喜平治の貢献が、この地域の近代化を大きく押し進めました。

## 天皇の小憩所に

明治25(1892)年、栃木県で陸軍大演習が行われた際、瀧澤家が天皇の小憩所となりました。小憩所に選ばれるということは、地域での一番の名望家であるというお墨付きをもらうことであり、大変名誉なことでした。後年、喜平治は庭に、天皇駐蹕之碑を建立しました。



天皇駐蹕之碑の前で(中央・喜平治)